

2004年3月定例会一般質問の要旨

「行財政改革」に求められることについて

小泉内閣の「三位一体改革路線」は、地方交付税や補助金削減など小規模自治体を切り捨てようとするものと考えているが、町長はこれにどう臨もうとしているか。

「無いよりましだ。」で不要不急のハコモノづくりが地方債をふくらませ、公債費(借金)の比率(04年度23%)を急増させており、ここにメスを入れるべきと、考えるが。

日南町総合文化センターを「財団法人化」しない改革の提案

経費節減と住民のニーズに応えるために、美術館の収蔵品の展示方法と入館料徴収方式の見直しを。

(学芸員の任務に、美術・博物・文化財・希少動植物などの研究および情報提供を含める)

町内の小学校に専任司書が配置できないなかで、公立図書館の果たす役割は、今後さらに重要になる。図書館の情報拠点化をすすめるために、司書のあり方を見直しを。

文化センターは、住民の文化的要求の実現のために、より主体的に参画できる仕組みを支援することに徹し、日南町教育文化振興協会の企画を見直す。

人権と部落問題について

公平・公正な住民サービスと部落問題の早期解決のために、「同和施策」の終結と、「部落問題」に矮小化・特化した人権・同和教育の廃止を。

昨年「人権・同和アンケート」の結果をどう分析したのか。残る課題を明確に。

「米改革」と日南町地域水田農業ビジョン

今年から政府がすすめている『コメ改革』は、「転作」を「作付け」に変えただけで、米価格の暴落を野放しにし、安心・安全な食糧を日本の大地から作るという責任を放棄したもので稲作農家はもちろん、農協も自治体も展望が見えないのが実態ではないか。

「売れる米」を、作付け可能な水田すべてで栽培できるよう量と質の指導をすべきと、考えるが。